

柑橘の育苗に関する研究

第3報 接木時期及び接木方法について

栗山隆明・安岡 研
(福岡県農業試験場園芸分場)

KURIYAMA, T. and YASUOKA, K.
Studies on the Growing of Citrus Young Trees

(Ⅲ) On the grafting time and technique of grafting

育苗技術の改善を行い健苗を育成のため、1959年より育苗に関する試験を実施しているが、接木時期、接木方法について一応の結果を得たので報告する。

試験方法

1) 接木時期試験 林温州の穂木を貯蔵前にワックス処理し、4月16日、28日、5月10日、19日の4回に分けて接木した。

2) 接木方法試験 林温州の穂木を接木直前と貯蔵前と二つに分けてワック処理を行い濃度は原液、10倍、30倍稀釈にし、ビニール接と慣行接(覆土接)を行い、苗木の活着率、生育、充実について調査した。

試験成績および考察

接木時期と活着率、苗木の生育の関係(第1表)

第1表 接木時期と活着率及び苗木の生育

接木時期	項目	活着率	伸 長 量				幹 径	成 苗 率
			春芽	夏芽	秋芽	合計		
		%	cm	cm	cm	cm	cm	%
4月16日		99	25.9	23.0	31.6	80.5	0.76	57.5
4月28日		75	16.8	21.7	30.6	69.1	0.69	35.0
5月10日		90	19.1	15.9	28.7	63.7	0.62	15.0
5月19日		71	13.4	13.0	27.0	53.4	0.58	9.3

※ 成苗率は幹長80cm以上

接木時期がおそくなる程穂木の貯蔵傷みが甚だしく、活着率は低下し苗木の生育も悪く充実も劣る傾向を認めた。

接木方法と活着率、苗木の生育および省力化との関係(第2表、第3表第1図)

活着率はビニール接区が慣行接区よりも僅かに良好で、接木後の萌芽はビニール接区が約2週間早く、ワックス濃度は薄い程早い傾向があり30倍区が最も早く、慣行接区も同じ傾向を示した。

苗木の生育はビニール接のワックス30倍処理が最も良く、冬期の落葉も少なかった。

接木労力は慣行区に比べて10当1人の省力程度であった。

む す び

以上の結果から、接木時期は低温でない限りは早い

方がよく、穂木は30倍程度に稀釈したワックス処理を行い、ビニール接を行う方が健全苗の成苗率が高い。

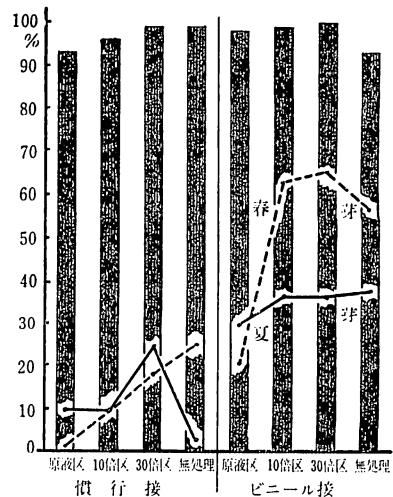
第2表 接木方法、ワックス濃度と苗木の生育

試験区	項目	貯蔵前処理		接木前処理	
		幹 径	幹 長	幹 径	幹 長
ビニール接	原液区	0.92	89.7	0.97	90.4
	10倍区	0.94	92.9	1.01	91.5
	30倍区	0.90	96.6	1.00	95.5
	無処理区	0.92	92.0	—	—
慣行接	原液区	0.89	102.3	—	—
	10倍区	0.89	92.8	—	—
	30倍区	0.84	87.1	—	—
	無処理区	0.88	87.7	0.97	95.3

第3表 接木時の所要労力(10a当)

	接木人夫		結束人夫		覆土人夫		台木切その他		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
慣行(A)	20~34	0	7~11	0	10	0	10	0	37~55
"(B)	13~20	7~10	7~11	0	10	0	10	0	37~51
ビニール接	13~20	13~20	0	0	10	0	10	0	36~50

第1図 活着率および萌芽の状態



※棒グラフは活着率
線グラフは新梢の展葉率